

令和5年度 恵那北小学校だより

3月20日号

げんきたっ子



前途洋々

校長 市川 伸美

花壇のスイセンが卒業生を祝福するように咲き始めました。



令和5年度は感染症対策の制限もなくなり、なかよし遊びや掃除の活動などが充実した1年間でした。子供たちは仲間とのかかわりの中で、自分のよさに気づき、それを続けることで自分の力を伸ばしてきました。

3月5日に、全校で「6年生を送る会」を行いました。どの学年も6年生に感謝の気持ちを伝えるために工夫し、心のこもった会になりました。1年生の体育館に響く声と自信満々のダンス、2年生の堂々とした演奏、3年生の工夫いっぱいのビデオレター、4年生の楽しく分かりやすい寸劇、5年生の美しい歌声と企画運営、てきぱきとした動き。どの姿を見ても、その成長と温かい心に、胸が熱くなりました。そして、6年生の存在の大きさも改めて感じる事ができました。6年生を中心に高めてきた3つの宝物「あいさつ」「読書」「掃除」を引き継ぎ、来年度もさらに磨いていけそうです。



子供たちは皆、“前途洋々”です。“前途洋々”の意味は、「これから先の人生が明るく開けていて、希望に満ちていること」。今後、夢が変わることもあるでしょうし、これから先、多くの出会いの中でさらに新しい可能性が見えてくることでしょう。自分の思いをもって、どの方向へでも向かうことができるのです。先日私の姪っ子が間違えて、「前途揚揚」と言っていました。私は、あながち間違っていないな、と感じてしまいました。すべての子供たちが自信をつけ、“意気揚々”と前を向いて歩いてほしいと願います。

そんな希望をもち、令和5年度を終えられることに、感謝します。

保護者の皆様、地域の皆様、本校に携わっていただいたすべての皆様、子供たちの成長を支えていただきありがとうございました。